

## 使用上の注意改訂のお知らせ

'13-No. 1  
2013年6月

緑内障・高眼圧症治療剤 <チモロールマレイン酸塩>製剤

# リズモン<sup>®</sup>TG点眼液0.25%

# リズモン<sup>®</sup>TG点眼液0.5%

緑内障・高眼圧症治療剤 <チモロールマレイン酸塩>製剤

# リズモン<sup>®</sup>点眼液0.25%

# リズモン<sup>®</sup>点眼液0.5%

わかもと製薬株式会社

この度、標記製品の「使用上の注意」を改訂いたしましたのでお知らせ申し上げます。  
今後のご使用に際しましては、下記の内容をご参照くださいますようお願い申し上げます。  
なお、流通在庫の関係から、改訂添付文書を封入した製品がお手元に届くまでには若干の日時を要しますので、何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

記

**1. 改訂内容** ( 部：自主改訂 部：記載整備)  
リズモン TG 点眼液 0.25%・0.5%

改訂後				改訂前			
4. 副作用 (2) その他の副作用				4. 副作用 (2) その他の副作用			
	頻度不明	0.1～5%未満	0.1%未満		頻度不明	0.1～5%未満	0.1%未満
省略 (変更なし)				省略			
消化器	下痢、消化不良、口渇、腹痛		悪心	消化器	下痢、消化不良、口渇		
その他	脱力感、耳鳴、倦怠感、咳、筋肉痛		不快、胸部圧迫感、発疹	その他	脱力感、耳鳴、倦怠感、咳		不快、胸部圧迫感、発疹、悪心

リズモン点眼液 0.25%・0.5%

改訂後				改訂前			
4. 副作用 (2) その他の副作用				4. 副作用 (2) その他の副作用			
	頻度不明	0.1～5%未満	0.1%未満		頻度不明	0.1～5%未満	0.1%未満
省略 (変更なし)				省略			
消化器	下痢、消化不良、口渇、腹痛		悪心	消化器	下痢、消化不良、口渇		
その他	脱力感、耳鳴、倦怠感、咳、筋肉痛		不快、胸部圧迫感、発疹	その他	脱力感、耳鳴、倦怠感、咳		不快、胸部圧迫感、発疹、悪心

☆ 3～4 ページに改訂後の「使用上の注意」全文が記載されておりますので、併せてご参照ください。



## 2. 改訂理由

### ○自主改訂

類薬に準じて、下記内容について注意喚起いたします。

(1) 「4. 副作用(2)その他の副作用」の「消化器：頻度不明」の項に下記事項をそれぞれ追記しました。

リズモンTG点眼液0.25%・0.5%：“腹痛”

リズモン点眼液0.25%・0.5%：“腹痛”

(2) 「4. 副作用(2)その他の副作用」の「その他：頻度不明」の項に下記事項をそれぞれ追記しました。

リズモンTG点眼液0.25%・0.5%：“筋肉痛”

リズモン点眼液0.25%・0.5%：“筋肉痛”

### ○記載整備

類薬との記載不一致部分について記載整備を行います。

(1) 「4. 副作用(2)その他の副作用」の「その他：0.1%未満」及び「消化器：0.1%未満」の項を下記事項のようにそれぞれ記載整備しました。

リズモンTG点眼液0.25%・0.5%：“悪心”を「その他」の項から「消化器」の項に変更

リズモン点眼液0.25%・0.5%：“悪心”を「その他」の項から「消化器」の項に変更

≪改訂内容は、日本製薬団体連合会発行の医薬品安全対策情報（DSU）No. 220（2013年6月）に掲載される予定です。

改訂後の添付文書は、医薬品医療機器情報提供ホームページ（<http://www.info.pmda.go.jp/>）並びに弊社ホームページ（<http://www.wakamoto-pharm.co.jp/mpc/>）に掲載しております。≫

〔禁忌（次の患者には投与しないこと）〕

1. 気管支喘息、又はその既往歴のある患者、気管支痙攣、重篤な慢性閉塞性肺疾患のある患者〔気管支平滑筋収縮作用により、喘息症状の誘発・悪化を起こすおそれがある。〕
2. コントロール不十分な心不全、洞性徐脈、房室ブロック（Ⅱ、Ⅲ度）、心原性ショックのある患者〔心刺激伝導系を抑制し、これらの症状が増悪するおそれがある。〕
3. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

〔組成・性状〕 (省略)

〔効能・効果〕 (省略)

〔用法・用量〕 (省略)

〔使用上の注意〕

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 肺高血圧による右心不全のある患者〔心機能を抑制し、症状を増悪するおそれがある。〕
- (2) うっ血性心不全のある患者〔心機能を抑制し、症状を増悪するおそれがある。〕
- (3) 糖尿病性ケトアシドーシス及び代謝性アシドーシスのある患者〔アシドーシスによる心筋収縮力の抑制を増強するおそれがある。〕
- (4) コントロール不十分な糖尿病のある患者〔低血糖症状を起こしやすく、かつ低血糖の前駆症状である頻脈等の症状をマスクしやすいので血糖値に注意すること。〕

2. 重要な基本的注意

- (1) 全身的に吸収される可能性があり、β-遮断剤全身投与時と同様の副作用があらわれることがあるので、留意すること。
- (2) 併用の場合に当たっては、本剤を最後に点眼するよう指導すること。やむを得ず本剤を使用した後、他の点眼剤を使用する場合には、ゲル化した点眼剤の吸収を妨げるおそれがあるため、本剤点眼後に十分な間隔をあけて点眼剤を使用するよう指導すること。
- (3) 点眼直後に製剤の特徴として点眼液が熱によりゲル化するため、べたつき等があるので、患者に十分説明すること。

3. 相互作用

本剤は、主として CYP2D6 によって代謝される。

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アドレナリン、ジピペフリン塩酸塩	散瞳作用が助長されたとの報告がある。	
カテコールアミン枯渇剤（レセルピン等）	交感神経系を過剰に抑制することがあるので、減量するなど注意すること。	本剤との併用により、β-遮断作用を相加的に増強する可能性がある。
β-遮断剤（全身投与）（アテノロール、プロプラノロール塩酸塩、メトプロロール酒石酸塩）	眼圧下降作用あるいはβ-遮断剤の全身的な作用を増強することがある。	本剤との併用により、相加的に作用が増強する可能性がある。
カルシウム拮抗剤（ベラパミル塩酸塩、ジルチアゼム塩酸塩）	徐脈、房室ブロック等の心刺激伝導障害、うっ血性心不全があらわれることがある。	本剤との併用により、相互に作用が増強されることがある。
ジギタリス製剤（ジゴキシン、ジギトキシン）	房室ブロック、徐脈等の心刺激伝導障害があらわれるおそれがあるため、心機能に注意すること。	本剤との併用により、相加的に作用が増強する可能性がある。
CYP2D6阻害作用を有する薬剤 キニジン硫酸塩水和物 選択的セロトニン再取り込み阻害剤	心拍数減少、徐脈等のβ-遮断作用が増強されたとの報告がある。	これらの薬剤は本剤の代謝酵素である P450 (CYP2D6) を阻害し、本剤の血中濃度が上昇する可能性がある。

4. 副作用

緑内障、高眼圧症を対象とした臨床試験における安全性評価対象例数 256 例中、24 例(9.4%)に副作用が認められた。主な副作用として眼科的には眼刺激感 7 件(2.7%)、癢痒感 4 件(1.6%)、結膜充血 2 件(0.8%)、異物感 2 件(0.8%)、ねばつき感 2 件(0.8%)、全身的には脈拍数減少 2 件(0.8%)が認められた。(承認時における集計)

(1) 重大な副作用（頻度不明）

1) 気管支痙攣、呼吸困難、呼吸不全

気管支痙攣、呼吸困難、呼吸不全があらわれることがあるので、これらの症状があらわれたときには投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) 心ブロック、うっ血性心不全、心停止、脳血管障害、脳虚血

心ブロック、うっ血性心不全、心停止、脳血管障害、脳虚血があらわれることがあるので、これらの症状があらわれたときには投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) 全身性エリテマトーデス

全身性エリテマトーデスの報告がある。

4) 眼類天疱瘡

結膜充血、角膜上皮障害、乾性角結膜炎、結膜萎縮、睫毛内反、眼瞼眼瞼球癒着等が発現することがある。

(2) その他の副作用

	頻度不明	0.1～5%未満	0.1%未満
眼	結膜炎(アレルギー性結膜炎を含む)	疼痛、灼熱感、かゆみ、ねばつき感、異物感、乾燥感等の眼刺激症状、霧視、視力低下等の視力障害、結膜充血、眼瞼炎(アレルギー性眼瞼炎を含む)、角膜炎、角膜びらん、角膜上皮障害等の角膜障害	眼脂、羞明、眼瞼下垂、角膜知觉低下、複視
眼（無水晶体眼又は眼底に病変のある患者等に長期連用した場合）			眼底黄斑部に浮腫、混濁（定期的に視力測定、眼底検査を行うなど観察を十分に行うこと）
循環器	浮腫、レイノー現象、四肢冷感	動悸、徐脈等の不整脈	低血圧、失神
精神神経系	悪夢、感覚異常、不眠	頭痛、めまい	抑うつ、重症筋無力症の増悪
消化器	下痢、消化不良、口渇、腹痛		悪心
その他	脱力感、耳鳴、倦怠感、咳、筋肉痛		不快、胸部圧迫感、発疹

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔安全性が確立していない。〕

(2) 本剤投与中は授乳を避けさせること。〔ヒト母乳中へ移行することがある。〕

7. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立されていない。

8. 適用上の注意

(1) 投与経路 点眼用のみ使用すること。

(2) 薬剤交付時 次のことを患者へ指導すること。

- 1) 原則として患眼を開眼し、結膜嚢内に点眼し、1～5分間閉眼と共に涙嚢部を圧迫した後開眼すること。
- 2) 点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。
- 3) 点眼のとき、液が眼瞼皮膚等についた場合には、すぐにふき取ること。
- 4) 必ず添付の遮光袋に入れて保存するよう指導すること。

〔禁忌（次の患者には投与しないこと）〕  
 1. 気管支喘息、又はその既往歴のある患者、気管支痙攣、重篤な慢性閉塞性肺疾患のある患者〔気管支平滑筋収縮作用により、喘息症状の誘発・悪化を起こすおそれがある。〕  
 2. コントロール不十分な心不全、洞性徐脈、房室ブロック（Ⅱ、Ⅲ度）、心原性ショックのある患者〔心刺激伝導系を抑制し、これらの症状が増悪するおそれがある。〕  
 3. 本剤の成分に過敏な患者

〔組成・性状〕 (省略)

〔効能・効果〕 (省略)

〔用法・用量〕 (省略)

〔使用上の注意〕

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 肺高血圧による右心不全のある患者〔心機能を抑制し、症状を増悪するおそれがある。〕
- (2) うっ血性心不全のある患者〔心機能を抑制し、症状を増悪するおそれがある。〕
- (3) 糖尿病性ケトアシドーシス及び代謝性アシドーシスのある患者〔アシドーシスによる心筋収縮力の抑制を増強するおそれがある。〕
- (4) コントロール不十分な糖尿病のある患者〔低血糖症状を起こしやすく、かつ低血糖の前駆症状である頻脈等の症状をマスクしやすいので血糖値に注意すること。〕

2. 重要な基本的注意

全身的に吸収される可能性があり、β-遮断剤全身投与時と同様の副作用があらわれることがあるので、留意すること。

3. 相互作用

本剤は、主として CYP2D6 によって代謝される。

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アドレナリン、ジピペフリン塩酸塩	散瞳作用が助長されたとの報告がある。	
カテコールアミン拮抗剤（レセルピン等）	交感神経系を過剰に抑制することがあるので、減量するなど注意すること。	本剤との併用により、β-遮断作用を相加的に増強する可能性がある。
β-遮断剤（全身投与）（アテノロール、プロプラノロール塩酸塩、メトプロロール酒石酸塩）	眼圧下降作用あるいはβ-遮断剤の全身的な作用を増強することがある。	本剤との併用により、相加的に作用が増強する可能性がある。
カルシウム拮抗剤（ベラパミル塩酸塩、ジルチアゼム塩酸塩）	徐脈、房室ブロック等の心刺激伝導障害、うっ血性心不全があらわれることがある。	本剤との併用により、相互に作用が増強されることがある。
ジギタリス製剤（ジゴキシン、ジギトキシン）	房室ブロック、徐脈等の心刺激伝導障害があらわれるおそれがあるので、心機能に注意すること。	本剤との併用により、相加的に作用が増強する可能性がある。
CYP2D6阻害作用を有する薬剤 キニジン硫酸塩水和物 選択的セロトニン再取り込み阻害剤	心拍数減少、徐脈等のβ-遮断作用が増強されたとの報告がある。	これらの薬剤は本剤の代謝酵素である P450 (CYP2D6) を阻害し、本剤の血中濃度が上昇する可能性がある。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度については文献等を参考に集計した。（再審査対象外）

(1) 重大な副作用（頻度不明）

1) 気管支痙攣、呼吸困難、呼吸不全

気管支痙攣、呼吸困難、呼吸不全があらわれることがあるので、これらの症状があらわれたときには投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) 心ブロック、うっ血性心不全、心停止、脳血管障害、脳虚血

心ブロック、うっ血性心不全、心停止、脳血管障害、脳虚血があらわれることがあるので、これらの症状があらわれたときには投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) 全身性エリテマトーデス

全身性エリテマトーデスの報告がある。

4) 眼類天疱瘡

結膜充血、角膜上皮障害、乾性角結膜炎、結膜萎縮、睫毛内反、眼瞼眼球癒着等が発現することがある。

(2) その他の副作用

	頻度不明	0.1～5%未満	0.1%未満
眼	結膜炎(アレルギー性結膜炎を含む)、結膜浮腫、眼瞼浮腫	疼痛、灼熱感、かゆみ、異物感、乾燥感等の眼刺激症状、霧視、視力低下等の視力障害、結膜充血、眼瞼炎(アレルギー性眼瞼炎を含む)、角膜炎、角膜びらん、角膜上皮障害等の角膜障害	眼脂、羞明、眼瞼下垂、角膜知觉低下、複視
眼（無水晶体眼又は眼底に病変のある患者等に長期連用した場合）			眼底黄斑部に浮腫、混濁（定期的に視力測定、眼底検査を行うなど観察を十分にすること）
循環器	浮腫、レイノー現象、四肢冷感	動悸、徐脈等の不整脈	低血圧、失神
精神神経系	悪夢、感覚異常、不眠	頭痛、めまい	抑うつ、重症筋無力症の増悪
消化器	下痢、消化不良、口渇、腹痛		悪心
その他	脱力感、耳鳴、倦怠感、咳、筋肉痛		不快、胸部圧迫感、発疹

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔安全性が確立していない〕

(2) 本剤投与中は授乳を避けさせること。〔ヒト母乳中へ移行することがある。〕

7. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立されていない。

8. 適用上の注意

(1) 投与経路 点眼用にのみ使用すること。

(2) 薬剤交付時 次のことを患者へ指導すること。

1) 原則として患眼を開眼し、結膜嚢内に点眼し、1～5分間閉眼と共に涙嚢部を圧迫した後開眼すること。

2) 点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。

3) 点眼のとき、液が眼瞼皮膚等についた場合には、すぐにふき取ること。

4) 本剤と他の点眼剤を併用する場合には、5分間以上の間隔をあけて点眼すること。